11月１日は『おかやま教育の日』

平成30年度

優良実践普及事業

優 良 実 践 校 概 要

岡山県教育委員会

優良実践校取組内容等一覧表（小学校）

	学校名	校長名	児童数	取組内容等
1	倉敷市立 庄小学校	小野　弘志 （おの　ひろし）	910	よりよい人間関係の構築と主体的な学校生活を創造する児童の育成 学力･学習状況調査の結果では、自己肯定感は高いものの、家庭学習時間やメディア等への接触時間に課題が見られ、意思疎通が苦手、自主性･自発性が低い傾向もあった。 このため、「岡山型学習指導のスタンダード」や「庄小学習スタンダード」による学習基盤の確立、児童のがんばりや思いやりのある言動に目を向けるための「ハッピーポスト（相手の行動を褒める手紙を送る運動）」の活用、特別活動（学級活動における話合い活動）に重点を置いた研究等に取り組んだ。 こうした取組の結果、教職員と児童との信頼関係の下、学習規律が徹底され、落ち着いて学習に取り組むことができており、主体的に自信をもって学習に向かう児童の姿が見られるようになった。
2	倉敷市立 連島北小学校	中田　和子 （なかた　かずこ）	122	地域との連携協働による、落ち着いた学校環境づくりと学力向上に向けた取組 児童は明るく素直であるが、小規模校という特性から、個に応じた学習が保障される反面、他者との交流が少なく、集団の中で自ら主体的に取り組むことは苦手であった。 このため、地域の教育資源や外部講師を活用し、計画的に体験活動を取り入れ、授業を充実させてきた。また、「教職員は学びのモデル」を目指し、校内研修を積み重ねるとともに、全教職員がベクトルを揃え、朝のスキルタイム（15分）の導入、「岡山型学習指導のスタンダード」の授業5に沿った授業、1人に1台使えるタブレットPC等を活用した授業、学習支援ソフトを活用した補充学習等に取り組んだ。さらに、地域学校協働本部「連北応援隊」を立ち上げ、学習支援、安全パトロール隊、環境整備等を実施することにより、地域との連携協働も進めた。 こうした取組により、児童は主体的に学習に取り組み、全国学力･学習状況調査の結果が全国平均を上回り、学校の合言葉である「笑顔がいっぱいの連北」への歩みをさらに進めることができた。
3	津山市立 高野小学校	井上　新子 （いのうえ　しんこ）	476	規範意識の向上と学び合いの推進 児童の中には家庭環境に恵まれなかったり、学力に対する意欲が持ちにくかったりする者も少なくなかった。また、自己肯定感や自尊意識の低い児童が非常に多く、学習面での課題も大きかった。 このため、学び合いの授業や集団におけるルールやマナーを徹底するとともに、計算や漢字の習得のための徹底週間を設定したり、学校を挙げて漢字検定に取り組むなど基礎学力の定着に取り組んだ。また、「黙ってそうじ」の取組では、特に頑張っている児童には「そうじ名人」の称号を与え、全校児童の前で表彰したり、児童会主導の「あいさつ名人」運動など、「〇〇名人」の取組で児童や教職員にも取組の見える化を徹底した。 こうした取組の結果、全国学力･学習状況調査の自己肯定感に関する項目での改善が見られ、落ち着いた学習環境が確保されている。

優良実践校取組内容等一覧表（小学校）

	学校名	校長名	児童数	取組内容等
4	早島町立 早島小学校	越宗　倫生 （こしむね　みちお）	805	ESDの視点を踏まえ、資質・能力の育成を目指す探究活動の充実 児童は素直で何事にも一生懸命取り組むことができる一方で、地域の行事や人とのかかわりをもつことに関心が低い傾向にある。早島町学校教育ビジョンのもと、確かな学力を身に付け、広い視野と高い志、たくさんの夢をもつためには、校種を越えた結びつきやそれを支える地域との協働が不可欠であると考えた。 このため、生活科・総合的な学習の時間等を中心に、年間指導計画を見直し、地域課題の探究活動の充実を図った。また、ESDの視点で重視する6つの構成概念・7つの能力・態度と、新学習指導要領の3つの柱の資質・能力（個別の知識・技能、思考力・判断力等、学びに向かう力・人間性等）との整理を行い、付けたい力を明確にした「単元学習プログラム」を各学年で作成するとともに、幼稚園・中学校との校種を越えた単元学習プログラムもいくつか作成した。さらに、児童はこうした授業での学びを子ども議会、熟議、子どもフォーラム等で、地域提案として発信し、地域への愛着やつながりを深めている。 こうした取組の結果、地域への関心が高まり、児童からの様々な提案は地域の活性化に貢献し、地域からの評価も高い。
5	西粟倉村立 西粟倉小学校	赤畑　さとみ （あかはた　さとみ）	81	積極的な学力向上対策の実施による学力・学習状況の復活 児童は、少人数の中で素朴に育つ反面、大きな集団で生活し、多様な考えや個性に触れる機会が少ない。また、ここ数年、学力調査における多くの項目で県平均を下回っており、学力の低下傾向が大きな課題となっていた。 このため、学校全体で「西粟倉小スタンダード」に基づいてベクトルを合わせ、授業改善を行うとともに、村独自の学力調査（小１～中３　全学年実施）による個人に着目した学習指導を実施してきた。また、県学力・学習状況調査と連動させ、個人のつまずきや苦手な部分を把握した上で学習指導にあたるとともに、その成果を村学力調査（12月実施）により確認し、経年で基礎学力の定着を図った。さらに、地域の人と関わる体験学習の場を多く設定するなど、「ふるさと学習」の充実にも取り組んだ。 こうした取組の結果、児童の学力状況及び学習状況の着実な改善に繋がっている。
6	美咲町立 加美小学校	梶並　裕子 （かじなみ　ゆうこ）	160	学習規律の徹底及びUDの視点を取り入れた落ち着いた学習環境づくり ６～7年前までは、学級崩壊や授業が成立しにくい学級が、毎年発生していた。どのクラスも私語が多く、学習に集中できない児童が複数おり、常に教室が騒がしい状況であった。 このため、学校独自の学習規律や生活のきまり『加美モデル』を学校全体で組織的に徹底し、平成26・27年度には、多様な学びの場「特別支援教室」の研究指定を受け、先進的に取り組み、その成果を活用したユニバーサルデザインの授業づくりに取り組んだ。また、漢字検定や美咲町統一テストを有効に活用し、基礎学力の定着に取り組むとともに、個々に課題を抱える児童に対して、教育相談や個別支援等を充実させた。 こうした取組の結果、落ち着いた学習環境づくりが実現されるとともに、学力面でも改善傾向にある。

優良実践校取組内容等一覧表（中学校）

	学校名	校長名	生徒数	取組内容等
1	津山市立 鶴山中学校	齊藤　員由 （さいとう　かずよし）	217	<u>積極的な生徒指導と生徒指導の機能を意識した授業による落ち着いた学校づくり</u> 基本的な生活習慣や学習習慣が身に付いておらず、規範意識の低い生徒も散見され、個別の支援が必要な生徒の割合も高く、授業に集中できない生徒も多く見られた。また、不登校（不登校傾向）の生徒の割合も高く、学力の二極化もみられた。 このため、SCP（Social traning and Career education Program）の導入（人間関係トレーニングの授業を各学年で行い、対人関係を営む技能の習得を図り、キャリア教育の視点による年間計画を作成し、将来の自分の夢を持つための機会を設定）、3年間にわたる生徒指導記録の情報の共有化、LT（リトルティーチャー：学力上位層の生徒が下位層の生徒を積極的に教えに回る。）の活用、課題提出物カレンダーの活用等に取り組んだ。 こうした取組の結果、生徒同士がお互いを認め合う落ち着いた学習環境が確保され、学力面でも改善が見られている。
2	総社市立 総社西中学校	三上　禎子 （みかみ　さちこ）	746	<u>主体的な学びを促進させる家庭学習の仕掛けによる学力向上の取組とだれもが行きたくなる学校づくり</u> 基本的な生活習慣や学習習慣が身に付いていない生徒が多く、個別の支援を必要とする生徒の割合や不登校・長期欠席の発生割合が高い状況にあった。 このため、中学校区で授業のスタンダード化（一貫WEST授業のきまり）を進めるとともに、生徒が主体的に家庭学習を行うよう、自主学習を中心とした統一した仕掛け（家勉ノートの活用など）を組織的に実施した。また、ピア・サポート、SEL（社会性と情動の学習）、協同学習、SWPBIS（SchoolWide Positive Behavioral Interventions and Supports）の4つのプログラムを徹底して取り組み、特に、グッドビヘイビアーチケットを活用したよい行動の意識付けと強化に取り組んだ。 こうした取組の結果、生徒の自己有用感が向上し、生徒・保護者・教員の信頼関係も構築され、平日の家庭学習時間1時間以上の生徒の割合も上昇しつつあり、学力面でも改善が見られた。
3	美作市立 作東中学校	新免　道明 （しんめん　みちあき）	130	<u>規範意識の向上と落ち着いた学習環境づくりの取組</u> 保健福祉部局やスクールソーシャルワーカーと連携した支援が必要な家庭が多くあり、平成28年度は、通常の学級での支援を要する生徒の割合が高く、個別の支援が必要な生徒も多い状況であった。学力面でも、現中学校3年生が小学校6年生時の全国学力・学習状況調査の結果が、すべて県の平均正答率を下回る結果であり、家庭での学習時間も少なかった。 このため、「あいさつ　返事　くつそろえ」と具体的な目標を掲げ、保幼小中で共有し、15年間継続した取組の定着を図るとともに、定期考査前のノーメディアも含め中学校区全体で強化週間を設定したり、夏季休業中に県立林野高等学校の生徒の協力を得て補充学習を実施するなど、補充学習の充実等にも取り組んだ。 こうした取組の結果、平日の家庭学習時間が1時間以上の生徒の割合が増加しており、学年が上がるにつれて家庭学習の習慣化や学力向上につながっている。また、現中学校3年生の全国学力・学習状況調査の結果では、すべて県平均を上回った。

優良実践校取組内容等一覧表（中学校）

	学校名	校長名	生徒数	取組内容等
4	鏡野町立 鏡野中学校	三村　公一 （みむら　きみかず）	307	<u>学校統合を契機とした落ち着いた学校づくり</u> 町内の中学校4校を平成28年度から1校に再編統合した。統合以前は、落ち着いた状況の山間部の小規模3校と生徒指導面で課題が多い中規模校との統合に不安の声も多く聞かれた。学力面においても山間部の小規模3校が学力が高く、中規模校と格差があった。 このため、岡山型学習指導のスタンダードに特別支援教育の視点を加えた鏡野中授業スタンダードを作成・徹底し、チャイムスタートの取組（生徒：授業開始前の入室・授業準備の徹底、教員：授業開始後5分の全員指導、校内環境の整備等）により学習規律の徹底を図った。また、家庭学習の充実に取り組むとともに、道徳科の授業づくりを教科の枠を越えて行うことにより、生徒の見取りや授業展開等、チームとして授業改善を行っている。 こうした取組の結果、落ち着いた学校づくりが実現されるとともに、学力面でも、全国学力・学習状況調査の結果は、多くの教科で全国平均を上回った。

これまでの優良実践校の取組はこちらから！

優良実践普及事業

http://www.pref.okayama.jp/page/535051

頑張る学校応援事業優良実践校ポータルサイト

http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/ganbarudb/index.html

県内の教育関連情報をタイムリーに発信中！

岡山県教育委員会公式Facebookページ

https://www.facebook.com/okayama.pref.kyoiku/